

第 17 回茨城フットケア研究会 抄録

一般講演

『透析室における糖尿病性腎症患者のフットケア 体制と院内連携について』

守谷慶友病院 看護師 石原 彰子

昨年 4 月より下肢末梢動脈疾患指導管理加算が始まり、毎月どのような体制をとれば糖尿病性腎症患者を含む全透析患者のフットケアや指導が行えるのか透析施設では悩まれたと思います。

また、糖尿病性腎症患者の足を見るにあたり時間に追われ本来見逃してはいけない足病変のアセスメントがおろそかになるのではと危惧しました。方向性を間違えると患者の足をすくうことが出来なくなります。

日々のフットケアの充実により異常の早期発見に努め、患者の歩行を守ることができると考えています。

当院のフットケアは、「歩行を守る。」をコンセプトとし、看護師だけではなく医師・コメディカルとの共通認識とし協力体制を充実させることが出来ました。その体制を述べたいと思います。

『対側下肢に尖足変形を伴った糖尿病性足病変の 1 症例

～免荷装具によるフットケア介入～』

水戸済生会総合病院 リハビリテーション科 理学療法士 竹歳 竜治

我が国は超高齢社会を迎え、高齢者の糖尿病有病率は増加している。高齢者は複数の疾患を罹患していることが多く、フットケアに難渋することがある。今回、糖尿病足病変に加え、小児麻痺により対側下肢に障害を呈した症例に対し、治癒時期に合わせた運動療法や創部免荷を目的にフットウェアを作成し、動作能力の改善を図った症例を報告する。

『フットケアチーム内での義肢装具士の役割』

株式会社東亜義肢 義肢装具士 伊菅 亮一

義肢装具士は病院外の会社に所属し、院内で主に治療用装具、義肢の採型、適合をする職種であるが、フットケアチームにおける役割は未だ確立していないと考える。

義肢装具士がフットケアを必要とする患者に対しどのような貢献ができるのか、また他職種と連携するにあたり、どのようなことを得意としどのようなことができないのかを症例とともに報告する。

特別講演： 『糖尿病性足病変の重症化を予防するフットケア』

杏林大学 医学部 形成外科 教授 大浦 紀彦

糖尿病性足病変は重症化して切断に至ると、網膜症や腎症と同じように患者のQOLを著しく低下させる。胼胝けずりや爪の管理も重要ではあるが、フットケアにおける一部であり、これだけでは、重症化を予防できない。

<重症化予防のために必要なこと>

- 1) 観察・評価、特に血流の評価は重要である。
- 2) 足の管理・変形に対する装具・靴、免荷の方法を適切に行う。
- 3) 重症下肢虚血や高度の感染症例では、これらの診療を重点的に行っている施設に紹介をする。
- 4) 重症下肢虚血の治療において、治療の成功のカギとなるのは、患者の栄養状態やADLであり、日常的な患者教育・足のリハビリテーション指導が重要である。

